

ジビエ利用モデル地区「岡山県美作地区」の取組概要①

モデル地区の構想

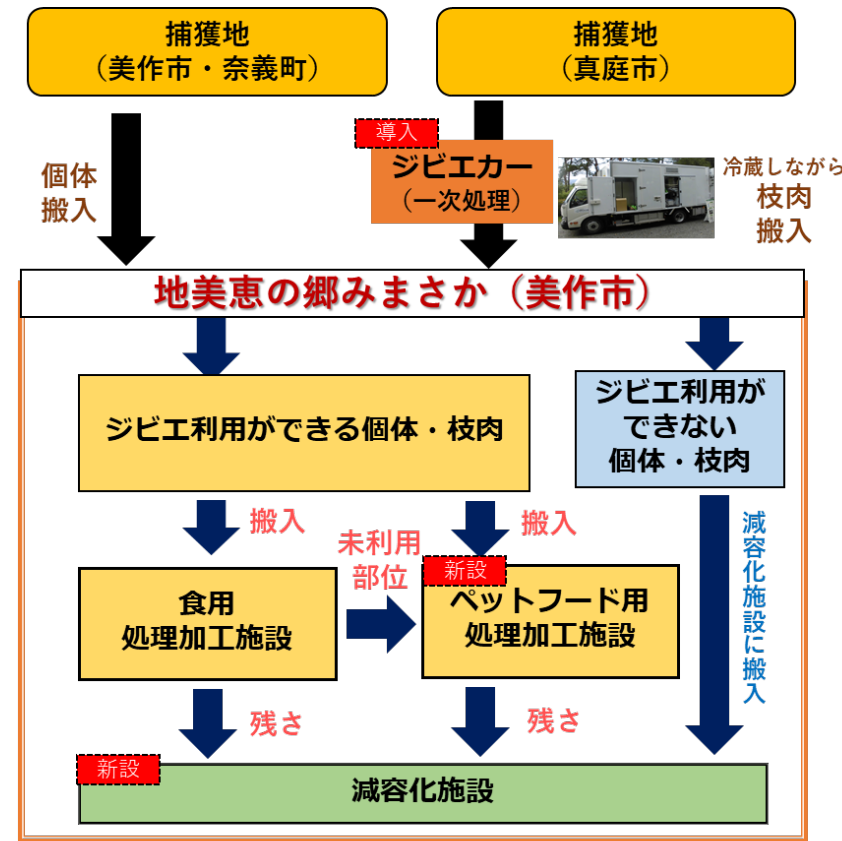
- 需要に対応するため、近隣市と連携してジビエカーの導入等による搬入頭数の増加を図るとともに、残渣処理の負担軽減のためペットフード用処理加工施設及び減容化施設等を整備し、大規模拠点としての処理加工体制を構築。

特徴的な取組

大規模拠点としての処理加工体制構築のため、

- 美作市・奈義町は、捕獲したシカ・イノシシを拠点となる処理加工施設「地美恵の里みまさか」（美作市）に搬入。真庭市は、新たに導入したジビエカーを活用し、捕獲したシカ・イノシシを「地美恵の里みまさか」に搬入。
- 「地美恵の里みまさか」では、
 - ① 搬入されたシカ・イノシシのうち、ジビエ利用できる個体・枝肉は、食用処理加工施設へ搬入。
 - ② 食用に適さない同個体・枝肉は、ペットフード用処理加工施設（新設）に搬入。
 - ③ ジビエ利用ができない個体・枝肉については、減容化施設（新設）に搬入。
 - ④ 食用・ペットフード用の処理加工施設の残さも減容化施設（新設）にて処理。

モデル地区の各体制



捕獲

搬送・集荷

処理加工

販売

	捕獲	搬送・集荷	処理加工	販売
体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 美作市猟友会、真庭地区猟友会及び奈義町猟友会のハンターが捕獲。 ● ICTを活用した捕獲センサーシステムも導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 捕獲個体は、拠点となる処理加工施設がある美作市の他、奈義町からハンターが捕獲個体を搬送。 ● 遠方の真庭市からは、真庭市がジビエカーで処理した枝肉を搬送。 ● ペットフード用の受入基準を追加。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美作市獣肉処理施設「地美恵の郷みまさか」において、食用及びペット用に分けて処理。 ● 処理後の残さや、ジビエ利用できない個体は減容化施設で減容化。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地美恵の郷みまさか」の運営を美作市から指定管理者（大手民間企業）に移行し、指定管理者が販売。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ● ICTを活用した捕獲センサーシステムにより、見回り労力が軽減するとともに、良質な個体を確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美作市以外からの搬送を行うとともに、ペットフード用の受入基準（※）を追加したことにより、安定した搬入頭数を確保。 ※ 小さい個体や、くくり罠が後脚にかかった個体も受入可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 減容化施設の整備により、美作市クリーンセンターに搬入する残さが減少。 整備前：150kg×3往復/日 整備後：100kg×3往復/週 	<ul style="list-style-type: none"> ● 首都圏レストラン等への販売に加え、指定管理者の店舗網での販売も進展（指定管理者の店舗数約160店）。また、指定管理者が加工品を開発。
プレイヤー	<ul style="list-style-type: none"> ● 美作市猟友会 ● 真庭地区猟友会 ● 奈義町猟友会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地美恵の郷みまさか ● 美作市、真庭市、奈義町 ● 美作市猟友会 ● 真庭地区猟友会 ● 奈義町猟友会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地美恵の郷みまさか ● 真庭市（ジビエカー） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地美恵の郷みまさか

※奈義町からの搬入については、現在、体制を整備中。

ジビエ利用モデル地区「岡山県美作地区」の取組概要②

コンソーシアム名

みまさか有害獣利活用研究コンソーシアム

コンソーシアム構成員

- 美作市〔代表、事務局〕
- 真庭市
- 美作市猟友会
- 真庭地区猟友会
- 岡山県
- (一社) 日本ジビエ振興協会

<参考>

広域連携団体：奈義町、奈義町猟友会

ジビエ倍増モデル整備事業取組内容

整備事業

取組内容

減容化施設一式、枝肉保管冷凍庫一式、資材保管倉庫一式

ジビエカー1台、保冷車1台

推進事業

取組内容

推進体制の整備（食肉解体処理技術講習等）

ICTによる情報管理の効率化（捕獲センサー）